

研究・調査報告書

報告書番号	担当
80	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳) The association of alcohol consumption and incident heart failure: the Cardiovascular Health Study. アルコール消費量と心不全の発症の関係について : the Cardiovascular Health Study.	
執筆者 Bryson CL, Mukamal KJ, Mittleman MA, Fried LP, Hirsch CH, Kitzman DW, Siscovick DS.	
掲載誌 (番号又は発行年月日) Journal of the American College of Cardiology.2006 Jul 18;48(2):305-11	
キーワード アルコール消費量、うっ血性心不全、心臓血管の健康に関する研究	
要旨 目的： アルコール消費とうっ血性心不全の発症率の関係を心筋梗塞の発症率を調整したモデルと調整しないモデルで調査した。 背景： 中等量のアルコール消費はうっ血性心不全や心筋梗塞のリスクを低減させることが知られている。 方法： the Cardiovascular Health Study は心血管疾患の危険因子とその発症について、65歳以上の5,888人を7～10年追跡した前向きコホート研究である。Coxモデルを用いて、アルコール消費量のうっ血性心不全に対する危険度を評価した。 結果： 対象は、ベースライン調査の時点で、アルコール消費量を含むうっ血性心不全発症のリスクを調査できた5,595人で、このうち、経過観察中に1056人がうっ血性心不全を発症した。アルコールを飲まない人と比較して、うっ血性心不全の危険度は、週に1～6単位(1単位は約1合分)飲酒すると答えた人(ハザード比(HR)0.82、95%信頼区間(CI)0.67-1.00、P=0.05)、週7～13単位飲酒する人で低かった(HR0.66、95%CI0.47-0.91、P=0.01)。時間依存性に心筋梗塞の発生を調整しても中等量飲酒者とうっ血性心不全の関連性はほとんど変化しなかった(週1～6単位でHR0.84、95%CI0.65-1.04、週7～13単位でHR0.69、95%CI0.49-0.99)。ベースライン時に、禁酒したと答えた人は、飲まない人と比較してうっ血性心不全の危険度が高かった(HR1.51、P<0.01)が、追跡期間中に禁酒した人の危険度は高くなかった(HR0.83、95%CI0.66-1.03)。 結論： 中等量飲酒する高齢者におけるうっ血性心不全の危険度は、心筋梗塞発生や他の因子を考慮しても低かった。	